

# 令和3年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく改善報告書

## 【理工学部】

### 1 学生との協議の場について

実施日	実施内容
令和4年3月2日（水）	CHAmmit参加者（教員含む）及び学生スタッフ、FD委員会委員、事務職員の計20名がZoomを使用し、学部提案書について2時間程度、実現に向けて意見交換を行い、FD委員会で検討しました。

### 2 学部提案書の対応について

#### ① 昨年度報告書の状況

項目	対応済	対応中	未対応	対応内容
メールで質問をする際に理工系特有の記号の記載が難しいため、質疑応答の方法について工夫してほしい	○			Zoomを使用したオフィスアワーを設け、質問対応の機会を確保して対応しました。

#### ② 新たな課題

項目	対応済	対応中	未対応	対応内容
駿河台校舎タワー・スコラの1階の動線を見直してほしい		○		感染状況及びワクチン接種状況等を踏まえて動線の見直しを検討しています。
実験については、対面受講希望者全員の登校を許可してほしい	○			実験、実習、演習等、理系ならではの教育特性が求められる授業は、安全に配慮して原則対面で実施します。一方、オンライン環境での学修効果が高いと求められる科目等は、科目特性に応じてオンライン方式を活用します。
課外活動（未来博士工房）を再開してほしい		○		研究活動の入構に合わせて、未来博士工房の活動についても再開します。
授業内でコミュニケーションが苦手な学生へのアプローチ方法の検討	○			演習、実習など学生と密接する授業科目の担当教員からの情報を教員間で共有し、学生相談室を利用しつつ対応しています。
授業の空き時間に学内で勉強できる場所が少ないため増やしてほしい		○		対面授業が再開されることで、空き教室が少なくなるため、演習室など限られた場所にはなりますが、開放することを検討しています。
登校している学生と登校していない学生同士が交流できる場（学生食堂などでZoomを介して）を増やしてほしい			○	今年度の感染状況から、マスクを着用している授業時よりもマスクを外している状況での感染が多いことから、感染防止の観点から対応することができません。今後、事態が収束に向かってきたら、徐々に以前の運用に戻していきます。
図書館の滞在可能時間を長くしてほしい		○		対面授業の再開に合わせて、図書館の運用方法についても検討しています。
学習管理システムの共通化してほしい	○			現行のポータルサイト（CSTポータル及びCSTポータルII）から、「CST-VOICE」に一元化します。また、運用後も学生及び教職員の意見を基により使用し易いように改修していきます。

#### ③ 「IT化と大学教育」へ向けての提案について

項目	対応済	対応中	未対応	対応内容
対面授業とオンライン授業の内容が等しくなるよう対面授業で話した細かな補足についてもオンライン授業の資料に反映させる	○			シラバス（授業計画）に基づき授業を行っているため、対面でもオンラインでも授業の内容自体は同じです。ただし、対面の場合は、学生の反応を感じつつ臨機応変に対応できるのに対して、オンデマンドの場合はそれができないので、補足の資料などで対応します。
学生が対面受講かオンライン受講かを選択することができるようにして、対面受講の希望者が多い場合は、隔週で対面受講にする			○	実験、実習、演習等、理系ならではの教育特性が求められる授業は、安全に配慮して原則対面で実施します。一方、オンライン環境での学修効果が高いと求められる科目等は、科目特性に応じてオンライン方式を活用します。

# 令和3年度 学生FD CHAmmiT 学部提案書に基づく改善報告書

## 【理工学部】

隔週対面授業の実験・実習科目について、対面で実施することができなかった授業回の補講を行う			○	正課授業で受講する学生がいること、実験施設の規模やスタッフの人材確保など対応が困難ではありますが、学科内で検討します。
VR (virtual reality) ・AR (Augmented Reality) 技術を利用した授業を行う			○	BIM (Building Information Modelling) を用いた建築・まちづくりについての紹介 (非常勤講師の実務者が自社ではBIMを用いてどのような仕事をしているのかを紹介する)は行っておりますが、日本では、まだ研究段階であり普及率も低いため、当面は導入することはできませんが、今後、実験や研究などの一部に取り入れることができるかを検討していきます。
ピアサポーター制度を導入し、コミュニケーションが苦手な学生の早期発見・早期対応に努める			○	ピアサポート (ピア：仲間の、サポート：支援) は、支援を求める学生のための手段であって、これは「困り感 (コミュニケーションが難しい)」のある学生の早期発見・早期対処方法の一つです。そのため、本改善報告書の他の項目であげた対応で学生のニーズには対応できていると考えております。しかし、ピアサポーター制度を導入している他大学の導入効果などは注視していきます。
オンラインでのオフィスアワー (正課の授業とは別に学生と教員のコミュニケーションを密接にする場として設けた時間帯) を充実させる	○			Zoomを使用したオフィスアワーを設け、質問対応の機会を確保して対応しました。
図書館の利用を事前予約制にして、入館制限を緩和する			○	対面授業の再開に合わせて、図書館の運用方法についても検討しています。
オンラインでアクセスすることができる電子書籍と論文の種類の拡充を図る			○	電子ジャーナルの購読料の高騰が世界的に起こっている中で、本学部は比較的恵まれた環境ではありますが、閲覧数により論文の取捨選択をしつつ運用していきます。また、今後は、オープンアクセス (学術論文に対して誰もがインターネットを介して無料でアクセスして利用できるようにすること) の論文が増えることが考えられます。
QRコードのトレーサビリティを用いて食堂やオープンスペースの混雑度の見える化を図る			○	システムの開発に時間と費用が生じることや、コロナ終息後は必要性が低くなることから、現状では対応ができません。

※①～③については、令和4年4月1日現在の対応内容となっており、今後の状況によって変更する可能性があります。

### 3 理工学部から学生へのメッセージ

日本大学では、FD活動に学生の声を反映させながら教育力の向上を目指すべく、平成25年度より、16学部87学科、短期大学部4学科、通信教育部を対象に学生・教員・職員が一堂に会して学生FDや本学の教育について理解を深め、気軽な雰囲気の中で語り合う「日本大学 学生FD CHAmmiT (ちゃみっと)」を開催しております。全学規模のイベントとなっており、例年、各学部等から200名以上の参加者を得て開催しております。令和2年度及び令和3年度においては、コロナ禍の影響により、オンライン (Zoom) 開催いたしました。

令和2年度のCHAmmiTでは、「オンライン授業のミライのカタチ」として、オンライン授業の改善・要望等を話し合い、学部への提案書を作成しました。これを踏まえて、効果的な教育改善の実現に繋がるよう、理工学部において学生との協議の場を設け、「改善報告書」を作成いたしました。

第9回目の開催となる令和3年度においては、理工学部で作成した令和2年度の改善報告書の内容をどこまで達成しているのか現状を整理した上で、さらに新たな課題及び提案にも目を向け、「アフターコロナ～IT化と大学教育～」について話し合い、理工学部への提案書を作成いたしました。令和2年度と同様に、令和3年度も学生・教員・職員の三者で協議した上で「改善報告書」を作成いたしましたので、御覧いただきますようお願いいたします。

今後も理工学部では、教育の質や改善について検討を重ね、より良い教育環境づくりに努めていきます。